

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 44 号	2005年3月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 3月6日（日）18名の参加を得まして、湿地帯散策道の堅木部分の取替えと椎茸ホダ木菌打ち込み55本 及び遊ロード昭和山頂上付近に桜の木植栽しました。参加された方々大変ご苦労さまでした。橋の改善は引き続いて行ないたいと思いますので万障繰り合わせの上参加をお願いします。
- 3月19日（土）19名の会員と地区の1名の応援で湿地帯の橋の補修のほか、水苔の採取植栽、湿地帯の整備、椎茸の収穫、須賀河内川魚の生息地の整備を行ないました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

—現在のところ予定者は有りません

◎ 行事

- 3月26日 子どもエコクラブ・サポータ活動発表会参加 会より3名
- 4月3日（第一日曜日）の活動 総会
- 4月16日（第三土曜日）の活動 午前：作業、午後：里山自然観察隊
 - ※ 竹炭の焼成を行ないます。日程は追って連絡します。
 - ※ 3月29日は会の会計監査です。

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

クロキとアセビ

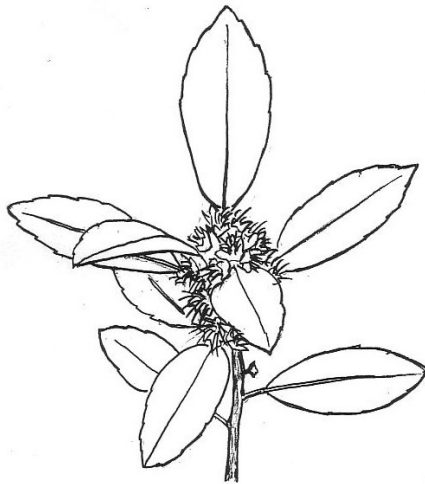
サクラの咲き出す前のひととき、山では地味ながら春を感じさせる木の花が咲いています。

クロキは樹皮が暗灰色で黒っぽいことから黒木という名前が付いています。宇部地方では、常緑広葉樹の中でアラカシと1位2位を争うくらい、多く分布している樹木です。3月下旬ころ、枝にびっしりと黄色い毛玉が着いたようにびっしりと花を付けます。花弁よりも長い多数のおしべの先の葯の色が黄色なため、薄黄色の瓶ブラシみたいに見えます。モチノキと葉がそっくりですが、よく見るとごく小さな鋸歯があり、また、若い枝は、四角形になることが多く、枝先の尖った芽（モチノキなどでは大きな芽はつかない）もポイントになります。

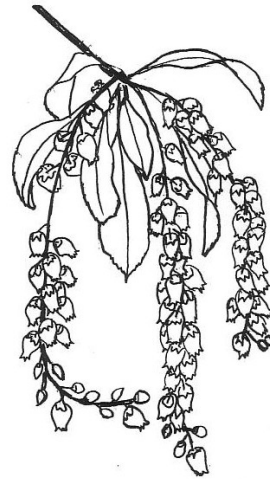
自然観察隊では昨年、シジミ蝶の仲間のサツマシジミが見つかりましたが、サツマシジミの食草はこのクロキです。サツマシジミの幼虫は、つばみ、花及び幼果を利用することが知られています。クロキの花を食べる白色の幼虫が見つかることがあるそうですが、私はまだ見たことはありません。クロキはハイノキ科に属する常緑高木ですが、ハイノキ科の植物は酸化アルミニウムを多く含み、焼いた灰は媒染剤として利用されていました。

アセビはツツジ科の高さ数mになる常緑低木です。早春から釣り鐘型の白い花を咲かせ、春の到来を実感させる植物です。花序は穂状に枝先から垂れ下がり、芳香があります。葉は光沢のある細い葉が枝先に集まって付きます。

有毒植物で、葉や茎にアセボトキシンという呼吸中枢を麻痺させる有毒成分が含まれていて、馬などが食べると、酔ったようにふらつき、はては昏睡状態になるといわれることから、漢字では「馬酔木」と書きます。こうした現象を、馬などがアシヒク（足痛）と表現、それがアシビ、さらにアセビへ転訛したともいわれています。シカなどの大型草食獣が食べないので、大型草食獣の多い場所ではアセビが選択的に残ることになります。山によっては、低木がアセビだけというところがありますが、こういう場所は野生のシカが多いか、かつて牧場でアセビだけが残ったという可能性が考えられます。二俣瀬ではそれほど多くはないので、バランスのとれた自然であるということがわかります。



クロキ（ハイノキ科）



アセビ（ツツジ科）

※アセビはこの地方では“お番茶”と言い、春先苗代の虫除けの材料として切り刻み水田に埋め込んでいました。里山春の苗代の風物詩といっても過言ではないでしょうか。（事務局より追記）

4. ビオトープ関連（会員の声）（関根 雅彦 記）

最近、私自身のビオトープへの関わりに余裕がでてきたと感じています。月二回の定例のうち1回は日曜日になり、また土曜日は月1回ゼミを休むことを研究室に認めてもらったことで、月二回の参加が無理なくできるようになってきました。リズムができてきた、っていう感じでしょうか。軽い気持ちで参加できています。

もちろん、会員の声で皆さん指摘されているように、一部の方にロードが片寄っているとか、生息数が減少しているのじゃないかとか、参加者の指向がばらばらだとか、いろいろ心配はあると思います。でもまずは人が集まることが第一。そのためには、なるべく気軽に参加できる雰囲気作りが大切だと思います。

まずは、家族を気軽に例会に連れてこれるような雰囲気をつくっていきましょうよ。その上で、作業の後などのくつろいだ時間の中で会員が自由に意見交換する機会をもう少し増やせばいい。建設計画時は、口論になるまで議論したものです。またあれがしたいわけではないけれど、これまでの会員の声を見ていると、いろいろな気持ちやアイデアを胸にしまい込んでいる人が多い。まずは、いいだしっぺの責任、とかなんとか言わずに、意見を出し合えることが大切。それで初めて、互いに何を考えているかがわかる。で、その中に納得できること、できそうな事があれば、例会の時間の中でどんどんやっていきましょうよ。例会以外の時間も必要となると、リズムが壊れて気が重くなる。物理的にできない人も多いはず。そういうテーマはあつさり別の機会にすればいい。（でもウイークデイまで使って頑張ってくれている人達がいることも事実。感謝です！）

実際の所、私がそれほど自然派でないことはとっくにバレているとは思いますが、私は私なりに楽しめる方法で参加していくつもりです。そのうち私もホントの自然派になれると思います。欲張らないでできることを続けて行きましょう！今後ともヨロシク！

次回は 郷中 行夫 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

- ― 春まだ通しで来訪者が少ないせいでしょうか今回も記載がありません。きっかけを作って書いているのですがあまり硬いことを書いているからでしょうか後が続きません。次を期待します。

6. 会よりの連絡事項

- (1) 竹炭の教育用に準備していましたが、申し込みも無いため4月のはじめに当会にて竹炭を焼いて水浄化用に使います。竹炭を焼いてみたい方お申し出下さい。
- (2) 平成17年度の総会を4月第一日曜日9時より開催します。振るってご参加ください。

7. 編集後記

三月半ばを過ぎても、まだ 梅が盛りと咲き、早咲きの桜や春の花々が咲き始めています。

去年に続いて 40本位のホダ木に椎茸の菌打ちをしました。前年の木からは、もう立派な椎茸が収穫され収入源となっています。味わってみて下さい。

湿地帯の橋の補修と新たな橋が ほぼ完成し、安心して通れる様になりました。江汐公園に風倒木を見に行った時は、こんな立派な {とても重そうな} 木を、人力で あの湿地帯で利用可能なのか心配でした。でも 中電さんの御協力で運搬して いただき、今までも そうであった様に何かを成す時に、皆の知恵、経験などの結集により、今回も 立派な図面まで出来て {寺森様の骨折りにより} 橋が完成しました。

前の橋を作った時は、こんなに早く傷みが来るとは 想像出来ませんでした。今度の橋げたの松の木は 水に強いそうなので 長く持ってくれる事を期待して、寒い中を 本当に御苦勞様でした。

(松本 フデ子 記)